

岩下徹ダンスワークショップ&パフォーマンス
ダンス以前からダンスへ——発表公演

PRESENT

●出演●

大城戸 佳子

桂 志保

高谷 俊輔

藤堂 悠貴子

竹之下 亮

町田 恭子

藤原 理恵子

●構成●

岩下 徹

日時 / 98年8月22日(土) 7:30PM開演

23日(日) 3:00PM開演

※開場は開演の30分前

料金 / 前売1000円 当日1500円 (全自由席)

前売取扱 ●チケットぴあ TEL06-363-9999

会場・予約・問合せ / アイホール (JR宝塚線伊丹駅前)

TEL0727-82-2000

〈スタッフ〉 照明=澳 義則 (アートステージプロ)

音響=加藤陽一郎 (SFC)

宣伝美術=大平純子 (工作室)

〈主 催〉 伊丹市 / (財) 伊丹市文化振興財団

現在。「いつか、どこか」ではなく、「いま、ここ」で。再現不能、一回性の瞬間。それは常に現在形でなければならない。同じことの反復はありえない。時間とはそのような非連続の連続なのだろう。その只中に在ること。眉をあげ、凛として。迷いは絶対に禁物である。「あれも、これも」でもなく、「あれか、これか」でもない。他にどうすることもできず、本当にそのようにしかできないということ。もはや避けることがまったく不可能な事態。絶体絶命である。しかもいかなる状況においても、そのことが一分の隙もなく貫徹されていなければならない。待ったなし。考えてからではもう遅い。そんな暇はないのである。どうせいつも予想は初め覆り、狙いは最初から外れてしまうではないか。考えても無駄である。何がどうなるか全然わからないのだから、真の<即興>はそこから始まるのである。30回のワークショップを通じて暗中模索してきた9つの身体。彼らの身体を使って何かを<くあらわす>ことではなく、彼らの身体そのものにくあらわれる。何か。それぞれがそれぞれのやり方で誠実に自己と向きあい、他者とかかわりながら生まれてくるもの。それが願わくは観客へのささやかな贈り物になれば幸いである。

岩下 徹
「PRESENT」は「現在」の語源から来ている。The student presented a gold watch to his teacher. <V+O+(to)+名+代> = The students presented their teacher with a gold watch. 生徒たちは先生に金時計を贈った。岩下徹ダンスワークショップ&パフォーマンス企画では、岩下徹の赤いタイトルのもと、4月からの5か月間、30回のワークショップを通じて、参加者それぞれが自分のダンスを発表し、創造中です。あらかじめ公演を設定することで、各他の目を介在させることで、各自が自身の問題としてのダンスを越え、自分が踊ることは他者にとって何なのかということまで深めていくことができると考えています。年令、ダンス経験の有無、動機など、様々な9人のありのままの「現在」をお贈りします。

実行: 10th ANNIVERSARY AI-HALL PRESENTS
志賀 玲子

